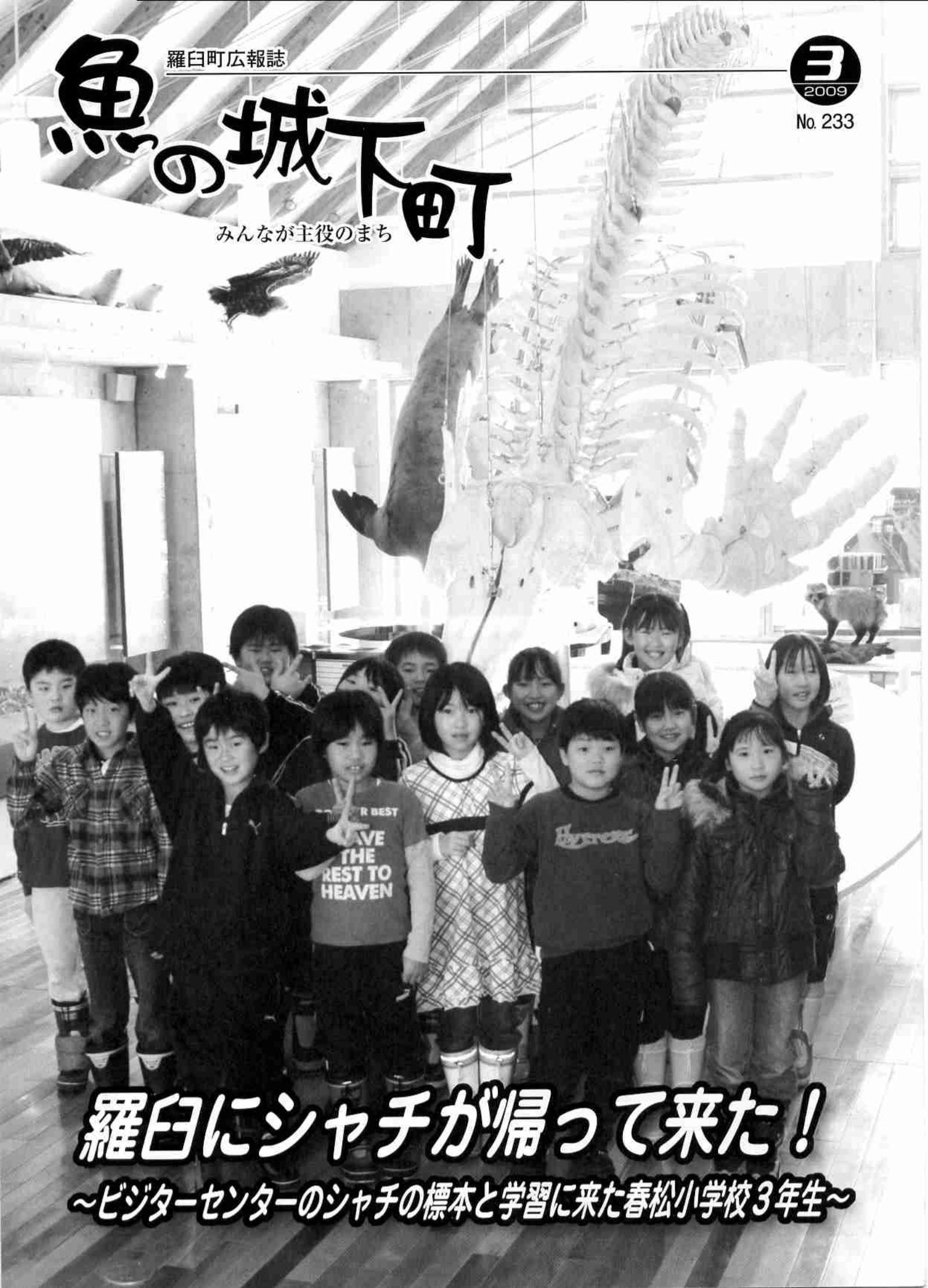


魚の城下町

みんなが主役のまち



羅臼にシャチが帰って来た!
~ビジャーセンターのシャチの標本と学習に来た春松小学校3年生~

世界自然遺産知床

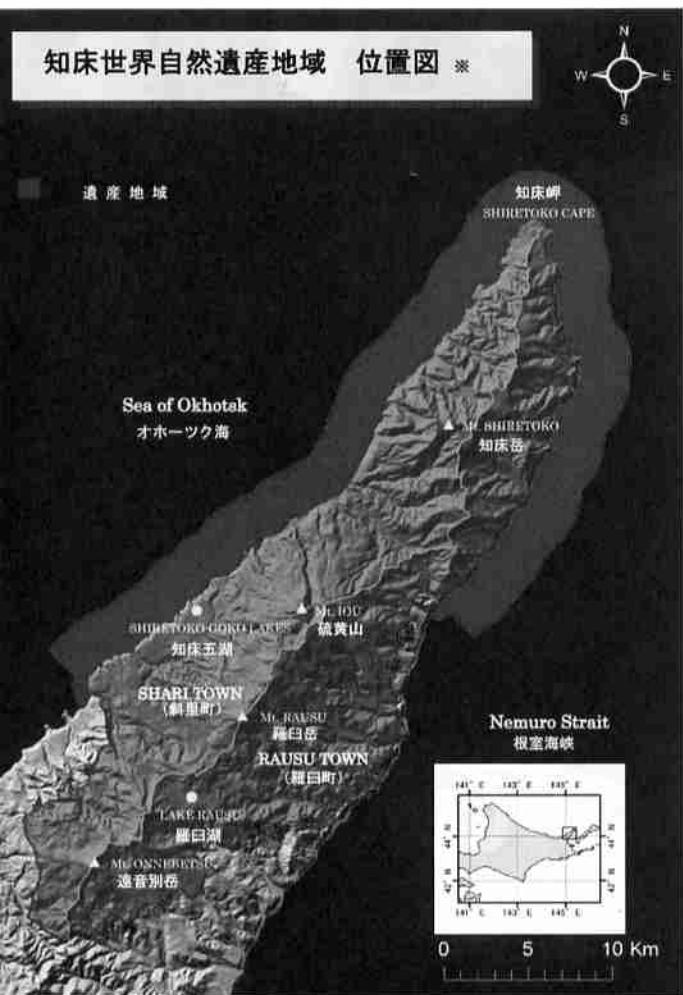
「羅臼町」を取り巻く現状

私たちの住む羅臼町は、斜里町と共に「知床」として平成17年7月17日にユネスコの「世界自然遺産」に登録されました。

この地域に住む者として、「世界自然遺産」という名はあまりにも身近ですが、現在、全世界で174箇所しかなく、あの有名なグランドキャニオンと同列の登録です。

世界自然遺産に登録されてから、3年余りの月日が流れました。この歳月の間どのような変化があり、現在この地域が置かれている状況を再確認してみたいと思います。

知床世界自然遺産地域 位置図



の2点です。そして、国立公園や森林生態系保護地域など国内でもトップレベルの保護体制が整備されていることが、前提にあつたためです。

- ①氷が運ぶ植物プランクトンの大発生に始まる食物連鎖により、豊かな海の生態系が形成され、魚を食べるワシ類や川を遡上するサケなどによって、海から陸に栄養分が運ばれ、海と陸の豊かな生態系の相互作用が知床の特有な自然環境を作り出している。
- ②知床の固有種であるシレトコスミレや世界的に絶滅が危惧されるシマフクロウやオジロワシ、オオワシ、トドなど多様な生物が息きできる重要な地域である。

遺産登録地域は、知床半島の一部とその沖合3kmの周辺海域からなります。平成6年に知床国立公園30周年を契機に羅臼町と斜里町で世界自然遺産登録への取組の検討を開始しました。登録にあつて高く評価された点は、

知床が世界自然遺産になれたわけ

知床を取り巻く団体や組織

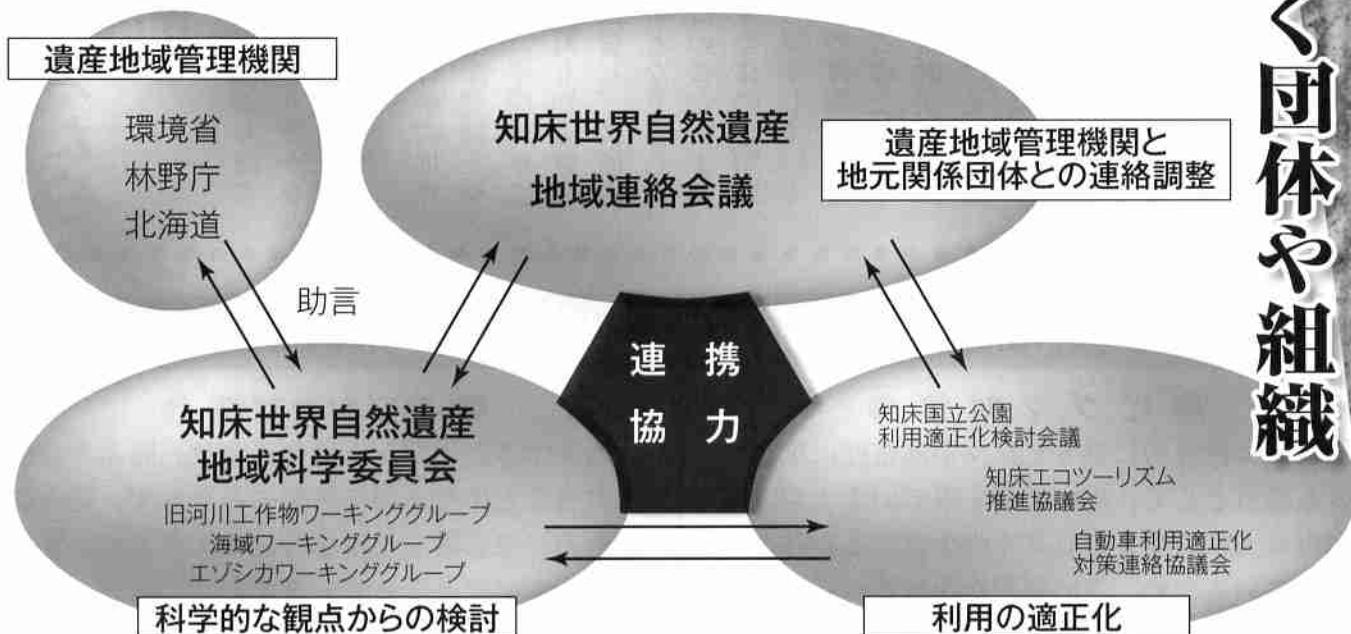


役場敷地内で生まれた小鹿。
世界自然遺産の町であっても自然な状況とは言い難い。

「世界自然遺産知床」ここに至るまでには各関係機関の活動があったからこそ登録されることが出来ました。

そして、登録されてからは遺産地域の保全・活用など色々な面で協議し助言や提案などをしていただく為、新たな団体も設立し活動いただいているいます。

ここでは、「遺産地域管理機関と地元関係団体との連絡調整」「科学的な観点からの検討」「利用の適正化」という視点から各団体の大まかな活動を紹介します。



利用の適正化

「知床国立公園利用適正化検討会議」

知床国立公園の適切な保護と利用の推進を図るため、学識経験者、関係団体及び関係行政機関により構成されました。

会議では、利用者が守るべきルール・マナーをまとめた利用の心得を策定。今後は利用実態や立ち入りによる自然環境への影響等を調査し、その結果を解析・評価することで、利用の適正化を推進します。

科学的な観点からの検討

「知床世界自然遺産地域科学委員会」

【旧河川工作物ワーキンググループ（アドバイザリーパネル※へ移行）】

遺産地域内の河川についてダム等の工作物がサケ類に及ぼす影響を評価し、魚道等の整備について助言

【海域ワーキンググループ】

海域管理計画の検討のほか、海域に関する各種調査やモニタリングの実施について助言

【エゾシカワーキンググループ】

増えすぎたエゾシカの生息頭数を減少させる取組について助言

※助言者の集まり、必要に応じて意見を求める有識者の方々

遺産地域管理機関と地元関係団体との連絡調整

「知床世界自然遺産地域連絡会議」

知床の世界自然遺産地域の適正な管理のあり方を検討するため、関係行政機関だけでなく、地域の意見を代表する団体や漁業協同組合などの広範な関係者が集まり議論をしています。

また、知床世界自然遺産地域科学委員会及び知床国立公園利用適正化検討会議との連絡調整も図る会議でもあります。



世界自然遺産「知床」を守るために参画

財団法人知床財団は、昭和63年に斜里町により設立され、知床に暮らす人々と自然がともに生きる豊かな大地を目指して、知床の自然を「知り、守り、伝えれる」活動を行っています。

羅臼ビジターセンター

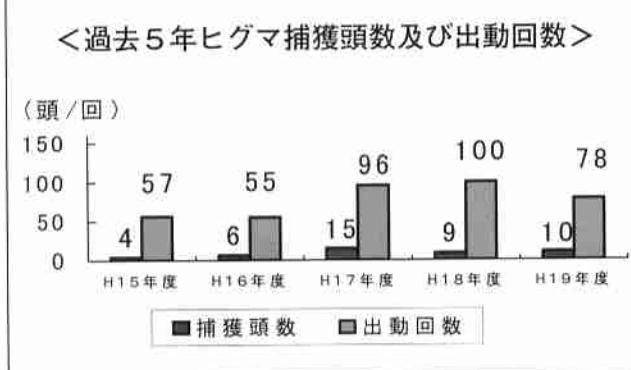
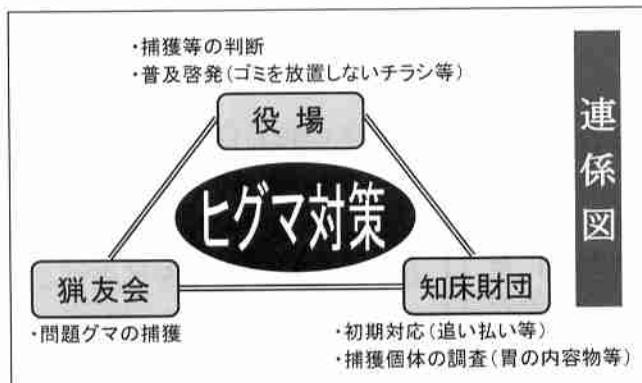
平成17年の世界自然遺産登録を契機に、平成18年に羅臼町も知床財団へ出資し、共同設立者となりました。このことにより、知床全体の自然環境を保全していくための体制が整つたことになります。

知床財団や獵友会と連係した活動

●ヒグマ対策●

知床は世界的に見てヒグマが高密度に生息できる場所として、高い評価を得ていますが、羅臼町は人家の裏までヒグマの生息する森林がせまっているため、きめ細やかな対策が必要です。

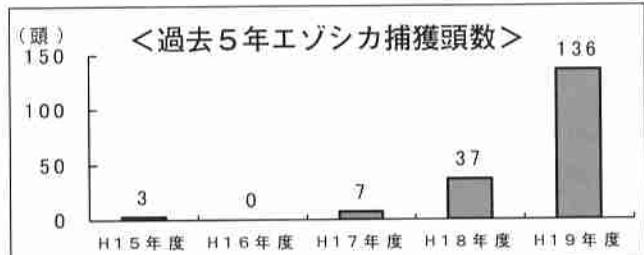
ヒグマ対策は追い払いを基本としますが、繰り返し出没する個体や人身事故の恐れがある個体は速やかに捕獲します。



●エゾシカ対策●

増えすぎたエゾシカは交通事故、庭木や花壇の食害などの生活環境被害のみならず、知床の生態系に悪影響を及ぼす可能性が大きく、早急な対応が必要となっています。

山林では、銃を使用した捕獲を行なうほか、市街地周辺に出没する人慣れし過ぎたエゾシカについては、麻酔薬を用いた吹矢により捕獲をするなど生息数の減少を目指して取組を進めています。



守り・活用する新たな拠点

世界自然遺産の環境を守ること

はもちろん重要ですが、世界自然の人に知つて頂くことも重要なと考えています。

羅臼町の観光客は世界自然遺産になつたことで一時増えましたが、今年度は認定前よりも減少してい

ます。

今年の春、

知床世界自然遺産地域の自然の素晴らしさ、利用にあ

たつてのルーム・マナー、

世界遺産条約に関する普及啓発を行う施

設として、ウトロには知床世界遺産センター、羅臼町

にはルサ地区に知床世界遺産ルサ・フィールドハウスがオープンします。

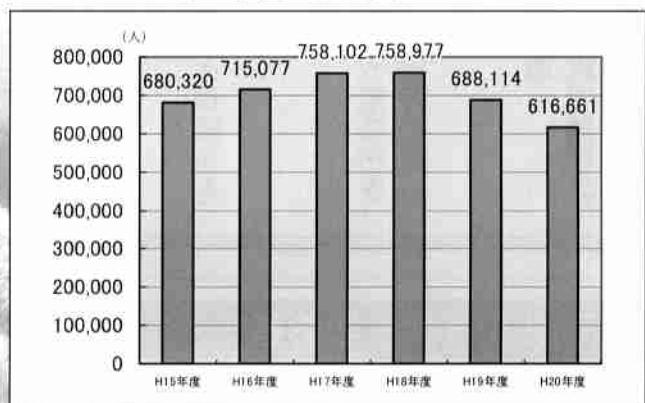
ルサ・フィールドハウスでは、半島先端部への入口施設として、先端部を利用する方へのルーム・マナーの説明や先端部現地のリアルタイム情報を探求するとともに、知床における人と海の関わりを通して、知床の素晴らしさを伝える施設となっています。

両施設とも環境省により設置され、それぞれの運営に北海道と羅臼町、斜里町が協力しています。

世界自然遺産センターが4月下旬、ルサ・フィールドハウスが6月上旬に開館予定です。

ルサ・フィールドハウス完成予定図

<過去6年間の観光客入込み数>



知床は、平成17年に世界自然遺産に登録され、「知床の豊かな恵みと美しさを全人類のために後世に伝える」という使命の実現に向け、町民の皆様をはじめ関係機関や団体のご協力を賜りながら鋭意努力をしています。

昨年2月、ユネスコとIUCNのメンバーからなる調査団が知床を訪れた際には、民間と行政が連携した幅広い保全活動について、高い評価をいただきました。

このよう中、本年2月14日にユネスコ憲章の精神に基づき「知床ユネスコ協会」が設立されました。

今後、斜里・羅臼両町の会員が中心となり知床財団や関係機関と連携し、知床の自然や世界自然遺産を学び、これまで育まれた文化を継承する活動が展開されることに大きく期待するところであります。

本年、世界自然遺産の拠点施設として、ウトロに世界遺産センターが、羅臼にルサ・フィールドハウスが供用開始となります。

ルサ・フィールドハウスは、知床岬先端部へのトレッキングやシーカヤックなどの安全で適正な利用を支援するとともに、知床の海について、その自然や漁業活動など生きた姿を紹介する施設であり、この2月にシャチの骨格標本を新たに展示しました。羅臼ビジターセンターと連携しながら、知床世界自然遺産や当町の情報発信拠点として、多くの方々の利用を期待するものであります。

町民のみなさまへ

(平成21年度町長行政執行方針より)

よい歯で、歯ツピーナ生活を

町では、こどもの歯を健やかに保つためにじゅうぶんな事業を通してお手伝いをさせていただいています。今回はその一部を紹介させていただきます。

○子育て支援センターでの歯に関するお話

子育て支援センター【ありんこ】で、保健師がむし歯のでき方や歯みがきの工夫の仕方、むし歯にならないためにできることについてお話をさせていただいています。

○幼稚園での歯みがき教室

町内の2つの幼稚園を保健師が巡回して、園児に向けて歯みがきの指導をしています。また、保護者の方にもお子さんの歯みがき指導の様子やお口の中の状態を知つてもうつために写真つきのお便りをお渡ししています。

○歯科表彰（あっぱれ大賞）

3歳児健診歯科検診でむし歯がなかつたお子さんと保護者を広報紙面で表彰させていただいています。

○乳幼児健診・幼稚園でのフッ素塗布事業

1歳6ヶ月児健診と3歳児健診時（年4回）にフッ素塗布を実施しています。また、幼稚園での歯科検診時に希望者に対しつつ素塗布を実施しています。

○子どもの健康診査・健康相談での歯科検診・歯科指導

町が行っている乳児健診、1歳6ヶ月児健診、3歳児健診の際に町内の歯科医師に協力ををしていただいて歯科検診を実施しています。先に記した子どもの健診と乳児相談、2歳児相談では保健師からむし歯のこと、歯みがきに関することなどお話をさせていただいています。

平成20年度 表彰者

（敬称略）

住 所	対象者 氏名	保護者氏名
春日町	川村 琉瑚	勇治
麻布町	稻川 礼	泰幸
麻布町	黒澤 ゆら	健一
麻布町	横岩 こころ	航
八木浜町	小野寺 晴己	覚
八木浜町	川端 航平	仁昭
八木浜町	鈴木 愛加	陽助
知昭町	三好 浩斗	勝人
知昭町	野間 琴葉	憲典
礼文町南	伊東 楓太郎	洋平
礼文町南	佐藤 努夢	安貴
栄町	阿部 泰成	康幸
湯ノ沢町	大野 遥希	貴史
船見町	伊藤 柚葉	隆好
海岸町	石田 絆良々	政寛
海岸町	米澤 翔	好宏

平成20年度 歯科表彰対象者は、平成17年1月～平成18年1月生まれのお子さんです。

平成20年度に行われました3歳児健診歯科検診の結果、左記の16名のお子さんはむし歯がありませんでしたので、表彰させていただきます。（平成19年度は29名がむし歯ゼロでした）これからも歯のお手入れをして健康な歯を大切にしてくださいね☆



あっぱれ大賞



歯みがき指導の内容

- ①紙芝居「おばけの歯みがき」
- ②ブラッシング…………保健師が声かけをしながら、園児自身で歯磨きをします。
- ③歯垢の染め出し…………磨き残しがないか染め出し液を使用して確認します。
- ④写真の撮影…………染め出し液がついたままの口の中の写真を撮影します。
- ⑤磨き残しを磨く…………手鏡で自分の口の中を見て磨き残しを確認します。保健師が声かけをしてもう一度磨きます。
- ⑥仕上げ磨き…………1人づつ仕上げ磨きをします。
- ⑦口の中を確認する…………手鏡でキレイになったことを確認します。

～後日、写真にコメントを書いて保護者へお渡ししています～

- 歯みがき指導ってなに？
幼稚園児を対象に歯のお手入れの基本、歯みがきの練習をします。

具体的にどんなことをしているの？

歯みがき指導は町内の幼稚園の先生と一緒に左記の内容・流れで実施しています。

歯みがき指導

このように幼稚園を巡回して歯磨き指導をしていますが、日々の家庭での歯みがきが大切です。そこで仕上げみがきを丁寧にしてあげてください。また、仕上げ磨きの際には歯と歯の間、歯と歯ぐきの境目、歯の裏側、奥歯は磨き残しやすいので注意が必要です。



～実際の様子～

具体的な歯みがきの仕方を説明しているところです♪

町の乳幼児健診

一般フッ素塗布の対象

1歳6ヶ月から就学まで。

※ここでいう1歳6ヶ月

とは既に1歳6ヶ月児健診を受けたお子さんの事を指します。



★身近にあるフッ素の利用

最近では、フッ素入りの歯みがき粉や低濃度のフッ素スプレー（レノビーゴなど）も市販されています。定期的なフッ素塗布に加えて、日常生活でも取り入れられるフッ素を利

用してみてはいかがですか？

フッ素塗布

- ★フッ素塗布受けていますか？

子どもの歯（乳歯）は歯の質が弱く、むし歯になりやすいと言われています。そこで、歯の質を強くするためにフッ素塗布が有効です。むし歯予防のために、半年に1回程度、フッ素塗布を行うことが勧められています。1回フッ素塗布を行つとよいでしょう。フッ素塗布は右のページに記載されている乳幼児健診等の機会や歯科医院で受ける事ができます。





城下町のわだい

みんなでまちづくり

3月2日(月)

村山榮一氏が旭日双光章を受賞

元羅臼町議会議員の村山榮一氏（通算8期32年）が、これまでの永きに亘る地方自治への功労が認められ旭日双光章を受賞されました。

村山氏は、昭和34

年より町議員として

活動し、麻布歯科診療所の開設や国道335号のシェルター整備

など数多く、羅臼町の基盤整備にご尽力いただいた功績が認められたものです。

村山氏は「自分が

いただきましたが、支えてくださいました方々を代表してのものだと思っていました」と話していました。



村山元町議(右手前)と奥様(右奥)が、役場町長室にて根室支庁長(左)より双光章の伝達を受けました。

町では協働のまちづくりを推進しています。

ここでは、町民や団体が自らの意思で「協働のまちづくり」を実践している方々を中心に取り上げ掲載して行きたいと考えています。みなさんも「協働のまちづくり」にご参加下さい！

2月19日(木)

地域の資源を生かした 健康増進に着目した観光メニューを検討

町の産業活性化を

今後、実現可能な観光メニュー

目指し活動している

が報告されることとなつております。

「羅臼町産業活性化プロ

ジェクト」が、専門家を招き、期待されます。

自然、食、温泉などの地域の資源を生かし、健康づくりに着目した観光メニューづくりの調査を行いました。

今回は、自然とみどりの村（幌萌町）においてスノーシュー（かんじき）・ウォーキングを行ったほか、温泉効能の調査、各種データの収集などを行いました。



青空の下、国後島を望みながらスノーシュー・ウォーキングを行いました。

参加者は、「血圧や心拍数の計測もあり最初は緊張しましたが、国後島や知床連山ものはっきりと見ることができ、気持ちよく歩くことができました」と話していました。

平成17年の冬に相泊沖で流水に挟まれ死んでしまったシャチが骨格標本になつて羅臼に帰つて来ました。

このシャチの全身骨格標本は、全長7.6メートル程もあり道内でも最大のものです。また、低い位置に設置されているため細部まで見ることが出来ます。

26日には、春松小学校3年生が総合的な学習でビジターセンターを訪れ標本やシャチについて説明を受けました。子ども達は「凄い！」と驚いていました。みなさんも迫力のあるその姿を是非ご覧下さい。



子ども達と比べると恐竜のようです。

尚、協賛団体とは別に地域貢献として、鈴木産業・尾田建設・小野建設工業・小川建設の4社が、会場施設としてプレハブを提供しています。



「シュート！シュート!!」声援がとんでもありました。

2月7日(土)

第7回 らうすオジロまつり

毎年恒例となつた「らうすオジロまつり」（主催：羅臼町商工会青年部）が今年も晴天の中、開催されました。

当日は、ちびっこ宝探しや雪中サッカー大会が行なわれました。

復活した舟引きレースでは、参加した7チームがコースを爆走し、会場から大きな声援を受けていました。

会場の準備から運営まで多くの団体が協力し、楽しい冬の一日にしていただきた事に感謝し、来年も楽しみにしています。

尚、協賛

団体とは別

に地域貢献

として、鈴

木産業・尾

田建設・小

野建設工

業・小川建

設の4社が、

会場施設と

してプレハブを提供し

ています。

2月28日(土)

2月28日(土)

(有)和光が役場庁舎入口と階段の一部を地域貢献として清掃実施



プロの技で、見事に綺麗になりました。

(有)和光が町民の入口であります正面玄関と階段の一部を地域貢献活動の一環として清掃して下さいました。

代表取締役の白井清子さんは「仕事をしていくだけでなく、地域に貢献していきたい」と話してくださいました。

清掃してくださった

場所は、使用頻度が高く汚れがありましたが、見違えるほど綺麗になりました。

みなさんありがとうございました。ありがとうございました。ありがとうございました。ありがとうございました。

情. RAISU TOWN 報ひろば INFORMATION

保健福祉課
☎ 87-2161

今月のヘルスチェック

「子どもの目線で」

子どもの成長は親にとっては楽しみの一つですよね。子どもはいろんな物に興味を持ち、いろんな挑戦をしながら物事を理解していきます。でも、挑戦には失敗が付き物。トレーニングを例にあげて見てていきましょう。ちょっと前まではトイレが上手く出来ていたのに、今日はまた失敗。どうして??

子どもの成長の過程では、一度成功したらもう大丈夫というものではありません。失敗と成功を繰り返しながら、段々と子どももコツをつかんでいけるようになります。早く一人で出来るようになって欲しいと願う親御さんも多いですが、焦らず見守っていくことも大切です。失敗して叱られてしまったことで、また失敗したらどうしようという不安が子どもにも生まれます。「失敗してもママは助けてくれる。失敗してもへっちゃらなんだ!」周りの大人が優しく受け止め、励ましてくれるそんな安心感が子どもの成長を助けてくれます。

また、環境を整えてあげて極力失敗をさせないことも一つの方法です。「失敗は成功の元」失敗を上手く子どもの自信につなげてあげましょう。

根室支庁管内4町に係る市町村合併検討・協議の結果報告

根室支庁管内4町の自治を考える会において、「合併新法の期限内の合併は時間的に困難である」として合併を断念しました。

平成21年2月18日(水)に中標津町役場において合併問題などの協議を行なってきた「根室管内4町の自治を考える会(根室管内4町の町長と議長で構成)」が開催され合併新法の期限内(平成22年3月末)での合併は「時間的に困難である」との結論に達し、合併を断念。同会も解散しました。

羅臼町は、国や北海道が示すであろう平成22年3月以降の合併推進政策など町を取り巻く情勢を見据えながらではありますが、自立の道を歩むこととなりました。

また、合併は断念しましたが、根室支庁管内4町が協力・連携していく事は変わりありません。今後については4町の町長が話し合う場である「町長会」で平成22年3月以降の合併問題や国民健康保険、医療問題など地域住民のサービスの向上を含め、広域的な事務事業を議論していくこととなります。

町民のみなさんにおかれましては、今後ともご支援とご協力を宜しくお願い致します。

町民の方からの要望と提案にお答えします。

[提案]

緑町の国道歩道の融雪(ロードヒーティング)再開を!

提案内容は、「温泉熱を利用して融雪をしていた学童ロードのロードヒーティングが、昨年から止まっている。ウォーキングは、健康のために誰でもできる運動だが、凍った冬の道は危険。安心して歩けることができた緑町の国道歩道の融雪を再開して欲しい。老若男女のオアシスロードとして長期的な健康プランのひとつとして有効」との提案のお手紙が町長へ届きました。

【お答えします】

お手紙のロードヒーティングは、北海道開発局釧路建設部(以下開発)により平成9年12月に国道334号の本町から栄町までの歩道約900mを温泉水で融雪するシステムとして設置されました。道路管理者である開発の回答は「一昨年からこの融雪システムの熱交換器の故障と融雪パイプの不具合により融雪ができない状況になつており、機械による除排雪と凍結面への砂撒き作業で今後も対応する予定」との事でした。

町民の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解頂きますよう宜しくお願い致します。

TAXコラム

(税務課通信)

今年の1月から3月の取組みをお知らせします。

1月26日から2月10日まで漁組の漁業者の方々を対象に決算指導を行いました。また、2月16日から2月27日まで漁組で、3月2日から16日まで役場でそれぞれ、確定申告を行いました。

その結果、昨年度の昆布、イカ、定置等の不漁もあり、赤字決算の事業者が見受けられ、その影響で出面等の賃金も減少し、21年度に課税される所得税のみならず住民税も減少する見込みです。

このような状況下ではありますが、滞納者が確定申告を行った結果、還付金が発生した場合には滞納額に充てることとしており、滞納額の圧縮に努めているところです。

このように今後も引き続き、完納の方々に対して不公平のないよう滞納者に対しては、より一層の強化を図りながら、滞納処分情報を広報に掲載し、周知してまいります。

町税滞納収納額の動き

区分	H21/2月	H20/2月	増減額
税務課収納額	26,877,932	32,684,909	△ 5,806,977
広域機構収納額	14,032,773	21,226,111	△ 7,193,338
収納合計額	40,910,705	53,911,020	△ 13,000,315

〈お問合せ先〉役場税務課 TEL87-2113

今月の 海岸線

浜でクジラやイルカを見つけたら…

これから時期は、動けなくなったり死亡したクジラ、イルカ、アザラシ等の、浜への打ち上げが増えてくる時期となります。

これらの動物は体が重いので、近づいた時に暴れられると非常に危険ですし、死亡したクジラの肉を食べて食中毒をおこした例もあります。

これらの処理については、羅臼町役場水産商工観光課が窓口となっておりるので、発見した際は、すみやかに水産商工観光課 (TEL: 87-2128) までご連絡ください。

定額給付金に伴う 詐欺にご注意!

国の緊急支援対策であります定額給付金事業が始まりました。

役場が窓口となつて給付事務を行ないますが、絶対に銀行ATMの操作や電話で個人情報を伺いすることはできませんので十分ご注意下さい。

もしも、このような問い合わせがありましたら絶対に答えず、警察もしくは役場にご連絡下さい。

【連絡先】
○中標津警察署
TEL 0153-72-0110
○羅臼町定額給付金事業等実施本部
TEL 87-2111 (役場代表電話)

寄附・寄贈 ありがとうございました

【診療所建設事業】
知床・羅臼まちづくり基金

山下 和恵 様
愛結会 会長 板倉肇 様

(平成21年1月11日～平成21年3月10日受付分掲載)

訂正とお詫び

2009年1月号7ページの羅臼町医療再生プロジェクトアドバイザー 高橋宏昌氏の紹介で「北海道大学大学院経済学研究科終了」と記載しましたが「北海道大學大学院経済学研究科修了」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。

ワシの一斉調査、観察会が実施されました

例年実施している「オジロ・オオワシ一斉調査」が今年も終了し、多数のオジロ・オオワシを数えることができました。

【羅臼町郷土資料室】

郷土資料室では町民のみなさまより寄贈いただいた生活、漁業に関する資料や、遺跡から出土した土器や石器、知床の自然を代表するシマフクロウやオオワシの剥製などを多数展示しています。

開室日：月～金（祝祭日を除く）
場 所：町民体育館 1階

開室時間：10時～17時
入 室 料：無料



オオワシ

植別川からルサ川間の37・5キロを8人の調査員が担当し、オオワシ成鳥92羽、幼鳥31羽、オジロワシ成鳥62羽、幼鳥28羽、不明ワシ4羽、合計217羽をカウントしました。

ここ十年間の調査では一番少ない数ですが、3千羽近くを数えた20年ほど前ではないにしろ、千羽

やつてきたようで、少しずつですが気温が上がって来たように感じられます。昭和53（1978）年以来実施している一斉調査が今年も2月22日に実施され、32回を数えるに至りました。

植別川からルサ川間の37・5キロを8人の調査員が担当し、オオ

ワシ成鳥92羽、幼鳥31羽、オジロワシ成鳥62羽、幼鳥28羽、不明ワシ4羽、合計217羽をカウントしました。

植別川からルサ川間の37・5キ

ロを8人の調査員が担当し、オオワシ成鳥92羽、幼鳥31羽、オジロワシ成鳥62羽、幼鳥28羽、不明ワシ4羽、合計217羽をカウントしました。

ここ十年間の調査では一番少ない数ですが、3千羽近くを数えた20年ほど前ではないにしろ、千羽

厳冬の知床岬も堪能することができます。もちろん、オオワシ、オジロワシも40羽ほどが乱舞して優美な姿を見せてくれました。羅臼では普段でもたくさん見ることのできるワシ達ですが、数メートルの距離にまで接近してみるワシにはみんな感動した様子でした。

オジロワシ、オオワシを始めとして、アザラシやトドなどは知床の生態系（自然の仕組み）を代表する動物であり、

知床が世界自然遺産に登録される理由の一つとなつた「世界で最も低い緯度で見られる流水と、それに伴う様々な動物たちの集まり」というユネスコの評価を代弁する動物であります。これほどたくさんのおじろわしが飛んでいたんだよ」と言うような昔話になつてしまわないよう、みんなで知恵を出し合つていきたいものです。

近くのワシがこの海峡に集結していたのではないかと想像しています。ワシの一斉調査はタンチョウの調査などとは違つて天候はもちろんのこと、流水の分布や漁船の操業区域によつても大きく影響されますので、その年の状況によつて大きな数の変動があります。

また、3月1日には「親と子のオジロ・オオワシ観察会」が実施されました。この日は流水が全く見えず心配していましたが、知床岬の先端部に接近すると根室海峡へ入り込み始めた流水帶があり、



オジロワシ

新たな一步を踏み出す季節に

入学入園、進級など新たな一步を踏み出す季節。期待感もありますが心にプレッシャーを感じる子どもたちも多いはず。大人も子どももゆったりとした気持ちで一日を終えるため「おやすみの時間」に絵本を読みましょう。きっとすがすがしい朝がきますよ。



「教室はまちがうところだ」
藤田晋治作

教室はまちがうところだ
緊張がいっぱいの教室で間違ったことを恐れちゃいけない。違うものをわらつちやいります。大らかな詩と絵で元い

うれしいが
いっぱい



「うれしいがいっぱい」
新沢としひこ作

僕の嬉しいことを君の嬉しいことに。君の嬉しいことを皆の嬉しいことに。ファンタジックな絵本。

○ 入園・入学・ともだちを
テーマにお薦めの絵本



「ぐるんばのようちえん」
堀内誠一作



「いたずらコヨーテキュウ」
といかや作

いたずらや意地悪ばかりしていることを恐れちゃいけない。違うものをわらつちやいります。大らかな詩と絵で元い



「ねずみのでんしゃ」
いわむらかずお作

七つ子たちは明日から幼稚園に行きたがらない子どもたちを何とかしようとお母さんは知恵を絞ります。



「ふたりはともだち」
ローベル作

がまくんとかえるくんのほの短いお話を一日一話ずつ楽しめます。

綺麗だと評判!



お好きなものをご自由にお持ち帰りできます。できれば募金として一口10円から設置した箱に入れていただきますと実行委員会が本の寄贈に役立てます。

○ 期間 3月末まで
○ 場所 公民館ロビー
3月のカレンダーなんて間が抜けた企画? とんでもない! 名画や写真、詩画集などの素敵なかレンダーが勢ぞろい。あなたのセンスで春のインテリアに額装して飾ってみては?

カレンダー市
開催中

休室日 年度末整理のため
3月30日(月)・31日(火)

「赤ちゃんとピッタリの名前が
みつかる本」「幼稚園のおべんとうママたちの裏ワザ大全書」
実用書など

「悩む力」姜尚中「買い物難民」「産声がきえていく」「参謀力直江兼続の知力」「童門冬二」「図書館ねこデューカイ」

「書上下」宮部みゆき「少女」湊かなえ「エンジョイしなけりや意味ないね」朝倉かすみ
教養・社会問題など

芥川賞「ボトスライムの舟」津村記久子直木賞「悼む人」天童荒太「利休にたずねよ」吉川栄治文学賞「オリンピックの身代金」奥田英朗小説すばる新人賞「魚神」千早茜

●旬の本



句 街道

もっと、ビジターセンターに
来てほしい。

知床国立公園 羅臼ビジターセンター勤務
財知床財団 義理地区事業係

きの
木 下 裕美子さん

ビジターセンターには、触って遊べる（体験出来る）ものやクイズを用意しています。また、絵本やおむつ交換台付きのトイレを完備していますから、小さなお子さんがいても安心ですのみなさん遊びに来てください。そして自分としては、動物の毛や骨など触って遊んでもらえる展示物を造り、増やしていくければと思っています。

みなさん、ビジターセンターでお待ちして

「今年の4月で、羅臼に来て1年になります。今は上司や先輩の下で、いろいろなことを教えてもらいながら、知床財団の業務の一環としてビジターセンターでの活動を行なわせて頂いています。

最近は、仕事などで町民の方と話す機会が増えましたが、ビジターセンターに行つたことが無いという声を耳にします。ですからまずはシャチの骨格標本を見に来て欲しいと思います。

羅臼ビジターセンターに勤務されている
木下裕美子さんにお話を伺いました。
木下さんは大阪出身で、「人と自然の博物館」と「兵庫県森林動物研究センター」で計7年間勤務し、昨年4月より(財)知床財団羅臼地区事業係として羅臼ビジターセンターに勤務しています。

人の動き

平成21年2月末現在
() 内は平成20年12月末対比
人口 6,190人 (-20)
男 3,088人 (-9)
女 3,102人 (-11)
世帯 2,201世帯 (+2)

編集後記

◆説明をするのは難しい。

私は話が下手です。

そんな時、文章にして自分で読んでみると、言いたい事がはっきりします。

伝えたい事を整理する。大切な事だと思います。

広報担当として少しでも解りやすい説明が出来るようになりたいと思います。

しかし、作文も苦手なのが問題です。(K)

羅臼いさり火吟社	1月例会
除夜の鐘辭かな雪をさせいけり	伏見三千代
九十年尊き命暦蘇を酌む	中村栄一
ソーランの唄が聴える鯨濁け	浜田羅牛
自由往来を鷗に託す春の夢	小泉恭介
除夜の鐘余生に心新たにす	長閑佳雪
百八の煩惱救う除夜の鐘	竹内因奈
百舌鳥一声高く銳く闇魔堂	宮腰鹿山
書籍棚並べ替えもす去年今年	川端向洋
権現の水音しきり去年今年	山中英美
少年の貫く一打除夜の鐘	小野寺千鶴枝

1月例会句

世界自然遺産のまち・知床羅臼町

■広報らうす 平成21年3月号

編集／羅臼町 総務企画財政課 広報統計係
〒086-1892 目梨郡羅臼町栄町100番地83

80153-87-2111

<http://www.rausu->